

## 「時の記念日」に異文化理解を考える

広島市教育センター次長 福原 紘治郎

6月10日は「時の記念日」であり、時間を尊重し、生活の改善と合理化を図る趣旨で1920年に制定されたそうである。

有史以来、時間は人間すべてに等しく与えられてきているが、時間に対する考え方や時間の使い方は国や民族によって少なからず違っているように思われる。

概して欧米諸国では、仕事上は時間厳守を尊重し、計画どおりに事が運ばれることに重点を置く反面、ラテン・アメリカや東南アジアの諸国では、時間厳守よりも仕事の成就という観点から人間関係に重点を置きたい。また、日本では外国の文化を摂取してきた歴史的背景に起因するためか、ある時は人間関係を、ある時は時間厳守を重視する傾向があるように思われる。

ところで、私たちは異文化と接する時、それらが育まれた背景への考察なしに、縦の評価をし優劣をつけがちである。

今ここに‘rubber time (ゴムの時間)’という英語の表現がある。船の出航時刻が3時となっているが、実際は2時に出るか5時に出るか定かでない状態を表す時などに用いる表現である。こういう状態を単に時間的に

ルースと決めつけることは避けるべきである。なぜなら、時間に対する考え方や時間の使い方は、その国や民族を取り巻く自然環境の中での長年にわたる試行錯誤を経て、作りあげられたものであり、いわゆる時計時間では計ることのできない生活のリズムが、時間に対する価値体系の形成に大きな影響を与えているからである。

私自身、仕事の関係でALT (語学指導助手) やアジアからの留学生など外国の人と接する機会が多い。その際、人間尊重の精神に則って相手を受け入れ、心のつながりを求めようとする寛容さと忍耐力を持つように心掛けている。さらに、彼らの思考及び行動形式に対しては、縦の評価意識ではなく、優劣をつけない横の評価意識を持つてのぞむことにしている。その結果、共に語り合い、共に学び合う過程で文化の多様性を感じると同時に、彼らのものの考え方の中に親近感や同質性を見出し新鮮な驚きを覚えることがある。先入観や偏見のないところに生まれるこの新鮮な驚きこそが、異文化理解の要であるというのはい言過ぎであろうか。

## 学校における教育研究の進め方

### 一 授業研究を中心に 一

広島市教育センター指導主事 井崎 明

#### はじめに

わたしたち教師は日々の教育実践の中で様々な課題にぶつかり、そのときどきに、子供の望ましい成長を願い、教育内容・方法を工夫し、教師としての資質を高めようと努力しています。こうした努力の効果がどういふ点でどの程度表れているのかを客観的に把握し、その成果と課題を明らかにしようとする営みが教育研究とよばれるものです。

学校における教育研究は

- ① 日常の教育活動から生まれた課題を、実践を通して解明し、実践に生かしていくための営みである
- ② 組織的な共同研究である

という点が特徴となります。したがって当然、授業研究を中心にすえて、全員で協力して取り組むこととなります。

そこで、ここでは授業研究の内容と方法について詳しく検討することにします。

#### 授業研究の問題点

授業研究はどの学校でも数多く行われていますが、研究の一過程として見たとき、次のような問題をかかえているようです。

- ① 授業研究で何を明らかにするかが明確でなく関心が授業技術ばかりに向かいやすい
- ② 授業研究はデータを収集し仮説を検証することに目的があるが、検証に必要なデータをどのように収集したらよいか計画を立てるのがむずかしい
- ③ 授業後の検討会が、感想を述べ合う会になってしまい、研究の成果と課題を明らかにする会になりにくい

こうした問題意識に立って、望ましい授業研究の進め方を考えることにします。

#### 望ましい授業研究の進め方

授業研究を中心にすえた教育研究全体の流れを示してみます。

- (1) 研究主題・研究目標の設定  
問題の発見・整理・焦点化
- (2) 研究仮説の設定  
何をどう変容させようとするのか  
その手だての要点は何か
- (3) 研究授業とデータの収集  
研究仮説を盛り込んだ学習指導案  
データ収集の計画・役割分担  
共同の力によるデータの収集
- (4) 授業検討会（データの分析・考察）  
データの整理・分析  
研究仮説に照らしての考察
- (5) 結論  
研究仮説の修正・成果の活用

では、この流れのポイントについてまとめて検討していきます。

#### (1) 研究主題の設定

研究の成果が明確になるためには、できるだけ具体的で焦点化された主題を設定する必要があります。学校全体の研究主題は、学校教育目標ないし重点目標と直結した大きな主題になりがちです。主題が大きい場合は、主題をさらに小項目に分析し、年次計画で取り上げたり、教科ごと、学年ごとの副題を設けたりする工夫が必要です。

#### (2) 研究仮説の設定

研究仮説とは研究の見通しを表したものです。一般的には次のように表現します。

- ① ○○において、
- ② ○○を○○すれば、
- ③ ○○となるであろう

①で研究対象や条件を限定し、②で研究のポイント（指導の手だてや工夫点など）を明示し、③で子供をどのように変容させようとするのかという結果の予測を示します。研究はこの研究仮説の妥当性を、客観的なデータによって検証する形で進めます。結果として③のようになったかどうか検証することになります。授業研究では、さらに授業の内容に応じて具体化した仮説（授業仮説）を設定するのが効果的です。そのことによって、授業のねらいや内容に応じた検証ができ、授業検討会を焦点化された会にすることができると言えるでしょう。

(3) 授業研究とデータの収集

授業研究では仮説を検証するためのデータの収集がポイントとなります。そこで、授業のどの場面でどういう方法でデータをとるかをできるだけ詳しく計画する必要があります。

データとしては、観察者による逐語記録、抽出見の観察記録、VTR記録などの他、学習者自身の内面をとらえるための評定尺度法、SD法、自由記述法、イメージマップ法などによる調査、学習の効果をとらえるための事前・事後テスト、SP表など多種多様なものが考えられます。

右の表は、歌唱表現力の変容を見るために、表現力の評定尺度を設け、VTRをもとに授業者が評価した例です。主観的な印象をより客観的にとらえ直すための工夫の一つです。

(4) 授業検討会

収集したデータは

事後の授業検討会で分析します。「なんとなく効果があがったように思う」という印象を、できるだけ客観的・科学的な結論として把握するためには、

- ① 一つ一つのデータを正確に読み取る
- ② 複数のデータを重ね合わせて解釈する
- ③ データから子供の変容を読み取る
- ④ 総合的に仮説を検証する

という作業が大切です。これだけの作業を1回の検討会に盛り込むのは困難だと思われます。そこで、グループ別の検討会と全体の検討会に分けて実施すれば、詳しい検討が可能になります。まず、グループごとに各種のデータを分担して①の作業を行います。その結果を資料として全体の検討会に報告し、全員で②から④の作業を行います。

このような方法で詳しく検討できる点は、組織的な共同研究であるという特徴を生かした、学校における教育研究ならではの利点ではないかと思えます。こうした研究を積み重ねることによって、次第に仮説が修正され研

究が深まるとともに、研究の成果は誰の目にも明らかな形で蓄積されていき、学校の共通の財産になっていくものと思います。

なお、教育研究の実例については、当教育センターが毎年刊行し各学校・園に配布している『研究紀要』並びに『研究集録』を参考にしてください。

参考文献

藤原藤祐『学校のための教育研究法』（ぎょうせい）

新平 昭 一		学年・組		3年 A組		
教材名	歌のおけいこ	-- 12/3(月) -- 12/10(月) -- 12/15(土)				
評価の観点	観	響き		フリース感		
		明るさ	安定感	音域	歌いはじめ	歌い終わりの
評 価 の 内 容	12/3 (A) ①	冷たい、ほろりとした感じが、目を潤かす感じが、	リズムにぞろぞろと、	どのクラスも、下り、	おもしろい、	あんなに、楽しそうに、
	12/10 (B) ②	少しづつ、明るくなって、	リズムにぞろぞろと、	どのクラスも、下り、	おもしろい、	あんなに、楽しそうに、
	12/15 (C) ③	また、明るくなって、	リズムにぞろぞろと、	どのクラスも、下り、	おもしろい、	あんなに、楽しそうに、

## 幼児の望ましい友達関係を育てる援助に関する一考察

—「ままごと」を通して—

広島市教育センター指導主事 宮 脇 いち子

社会環境の変化とそれに伴う幼児の生活の変化により、友達と遊ぶ場所や時間等が少なくなり、友達と一緒に遊べない幼児も増えてきている。そのため、遊びを通して友達とかわりが多くもてるような場を設定し、幼児に友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わわせる援助が必要となってきている。

本研究は、「ままごと」の場面での事例を取り上げて、友達とのかかわり方や教師のかかわり方から、望ましい友達関係を育てる援助の手がかりを得ようとしたものである。

### 幼児の友達関係を育てる遊び

表1は、ピアジェ (J.Piaget) の思考の発達と遊びの分類を参考にして、幼稚園での幼児の遊びを分類したものである。これらの遊びについて、友達関係を育てるという観点で考察した結果、生活の経験や記憶を再現しての遊びである象徴遊びは、個々のイメージと他の幼児のイメージを一緒にしながら、共通のイメージをもって、友達と一緒に遊ぶことができるため、友達関係を育てやすいと言える。

表1 遊びの分類

遊びの分類	遊びの特徴	遊びの内容
機能遊び	一人で身体や感覚の機能を働かせて遊ぶ	鉄棒、縄跳び等
象徴遊び	経験や記憶を再現して遊ぶ	ままごと、ごっこ等
ルールのある遊び	ルールを決めて遊ぶ	かくれんぼ、鬼ごっこ等

### 幼児の友達関係を育てる教師の援助

幼児は、友達との遊びを通して、自然に友達とのかかわり方を学んでいく。しかし、自然の成長のみに任せたのでは、幼児によっては、友達とかわり方が育ちにくかったり、かわり方に問題が生じたりすることも考えら

れる。教師は、個々の幼児の遊びの実態を把握し、環境を整え、発達の段階に応じた援助を意図的に行う必要がある。

日常の保育実践の場における教師の援助は、直接的な援助（直接に幼児とかわかって発達に必要な経験ができるようにする援助）と間接的な援助（幼児の生活の流れや発達をみきわめたり、それにふさわしい環境を作ったりする援助）に分類できる（表2）。

表2 友達関係を育てる教師の援助

援助の種類	イメージの育て方	主なかわり方
直接的援助	遊びのイメージを受け入れる	共感する、賞賛する等
	遊びのイメージが発展できるように促す	気付かせる、励ます等
	遊びのイメージが深まるように教える	相談にのる、説明する等
間接的援助	遊びのイメージを見守り、理解する	尋ねる、確かめる等
	遊びのイメージを実現できる環境を整える	材料や用具を準備する等

幼児の望ましい友達関係を育成するためには、

- ① 幼児が一人で遊んでいる時、見守ったり尋ねたりして、遊びの内容を理解する
- ② 教師が幼児と一緒に遊びながら、行動や気持ちを好意的に受け止める
- ③ これまでの遊びの経験が生かせたり興味をもったりできる環境の設定と、遊びを発展させる材料や用具の準備をする
- ④ アイディアを提供したり情報を教えたりしながら、遊びのイメージを広げることが考えられる。

しかし、すべての幼児が、友達とのかかわりの育つ過程を一律にたどっていくのではないので、一人一人の発達の段階をみきわめた援助が大切であることは、言うまでもないことである。

— 教育相談コーナー —

Q

おこたえします

A

朝になると登校をしづるA男

Q 小学校1年生のA男の担任です。A男は、入学して1週間過ぎたころから朝になると「学校へ行きたくない」と言っ  
て登校をしづるようになりました。家を出ようとする  
と「おなかがいい」「あたまがいい」と泣きながら言う  
そうです。特に、給食が始まると登校をしづる  
ことがひどくなり、時々欠席するよう  
にもなってきました。偏食が多く少食な  
ので、給食のことが気になっている  
ように思われます。これからどのように指導  
すればよいでしょうか。

A 小学校に入学して間もない児童が登校をしづる原因としては、「おうちの人と離れるのがつらい」「新しい環境に慣れない」「先生が怖い」「給食が嫌い」「家庭での不安」など様々なことが考えられます。A男は、新しい環境の中で強く不安を感じて、登校をしづったり欠席をしたりしていると思われ  
ます。

腹痛や頭痛に関しては、医師の診察を受けることが必要な場合もありますが、精神的な負担が症状となって現れていることも考えられます。保護者は、何かと原因を突き止めようとしますが、これといった理由が見つからずイライラがつることになります。そこで、次のような対応が必要となってきます。

① 登校刺激を緩和する

登校を誘ってA男の状態が悪くなるようであれば、無理に学校へ引っ張ろうとしないようにします。保護者と登校できるようであれば、一緒に登校することを認めます。その際、保護者との連絡を密にしておくことが大切です。担任が迎えに行くと、「学校に行かなければ

いけない」という気持ちを強め緊張を高めることがあります。遅刻や早退をすることに寛容な対応をしたり、教室に入れないとき保健室などに行くことを認めたりして、不安な気持ちを和らげることが大切です。

② 受容する

登校してきたときは、笑顔で温かく迎えA男の緊張をほぐすようにします。給食の時は、「少しずつでもいいよ」と無理やり食べさせようとしないようにし、不安を和らげる声掛けをします。不安をもっていると思われる給食ばかりに目を向けるのではなく、A男の得意なことを認めて自信をもたせたいものです。また、授業中A男に完ぺきさを求めるのではなく、「がんばったね」「よくやったね」など、本人の努力を認めるような声掛けを行うことも大切です。

③ 共感する

A男の興味があることを話題にしてかかわったり、休憩時間などに一緒に遊んだりすることも大切です。教師に親しみを感じ、楽しさを感じる経験が活動意欲につながります。学級に慣れずに一人でいれば、慣れるまで班遊びを取り入れるなど、級友とかかわる機会を設定することも必要です。

以上のようにして児童の不安・緊張を和らげると、精神的に安定してきて登校への意欲が高まってくるものと思われ  
ます。登校をしづる児童にかかわるとき、登校しないことを非難したり、頑張らせようと無理に引っ張ったりするだけでは、状態はよくなりません。児童の気持ちを理解しながら心の安定を図っていくことが大切です。

広島市教育センター指導主事 中尾 秀行

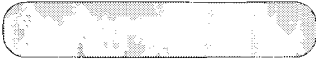
# 教育センターひろば



(平成5年4月～9月)

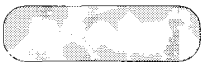
今年度前期は次の5名の先生方が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

- 算数科教育：竹谷和幸教諭（日浦小）
- 理科教育：渡邊俊二教諭（古田中）
- 生徒指導：今田龍二教諭（牛田小）
- 教育工学：玉井基宏教諭（鈴張小）
- 幼稚園教育：下野幸子教諭（矢野幼）



(平成5年4月～平成6年3月)

- 校内研修：川本正行教諭（原南小）
- 校内研修：山田重則教諭（城山北中）



**\*離退任** ～在任中はお世話になりました～

- 上野琢司次長（神崎小学校校長へ）
- 谷崎あけみ主任（婦人教育会館副館長へ）
- 橋本佳和主事（安佐南区役所主事へ）
- 用品直義教育相談員（退職）
- 片山貞昭研修指導員（退職）
- 木戸義明研修指導員（退職）

**\*就任** ～どうぞよろしく～

- 福原紘治郎次長(教育センター主任指導主事から)
- 岡本和之主幹(市長室公聴課主任から)
- 松脇守弥指導主事(亀崎中学校教諭から)
- 中村朋晴主事(新規採用)
- 渡邊了夫教育相談員(前舟入高等学校校長)
- 河野 禎研修指導員(前古田小学校校長)
- 寄重弘光研修指導員(前上温品小学校校長)



部	事業等	職	名	氏	名	担	当	業	務
		所次	長	小西清彦	福原紘治郎	所務総括		所務管理・執行	
管理部	庶務・経理	主任	主幹(主事)	岡本和之	保本早苗	中村朋晴		部内総括, 予算, 決算 公印, 給与, 文書処理, 経理等 施設設備の維持・管理, 経理等	
第一研修部	教育相談・広報	主任指導主事	指導主事	松田了二	宮脇いち子			部内総括, 生徒指導, 教育相談 幼稚園教育	
		指導主事	指導主事	木村正信				生活科, 特別活動, 社会教育	
		指導主事	指導主事	三原裕隆				生徒指導, 教育相談	
		指導主事	指導主事	中尾秀行				障害児教育, 教育相談	
		指導主事	指導主事	神増正和				国際理解教育	
		教育相談員	教育相談員	前田典生				教育相談	
		教育相談員	教育相談員	室中弘道				教育相談	
第二研修部	研究・資料整備	主任指導主事	指導主事	財津伸了	正坊地武生			部内総括, 国語科 教育工学, 視聴覚教育	
		指導主事	指導主事	井崎 明				音楽科	
		指導主事	指導主事	福原正明				図画工作科, 美術科	
		指導主事	指導主事	吉竹邦昭				社会科, 道徳	
		研修指導員	研修指導員	杉山武郎				教育工学, 視聴覚教育	
		図書資料室嘱託	図書資料室嘱託	大下千賀子				図書資料関係事務	
		第三研修部	研 修	主任指導主事	指導主事	民安和昭	江田英俊		
指導主事	指導主事			越智文嗣				理科, 同和教育	
指導主事	指導主事			松脇守弥				外国語(英語)科	
指導主事	指導主事			松浦俊雄				理科	
研修指導員	研修指導員			河野 禎				理科	
研修指導員	研修指導員			寄重弘光				家庭科, 技術・家庭科	

**題 字** 広島市立長東小学校校長 佐藤 陽祐  
**表紙絵** 広島市立福木中学校教頭 濱田 昭法

## 編 集 後 記

新しい年度を迎え、最初の所報をお届けします。皆様の役に立つ所報をめざして編集してまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

